



多様な教科の指導案に 岩手大・教職大学院の13人

岩手大（山本欣郎学長）の大学院教育学研究科（教職大学院）修士課程1年生の13人は、プラス日報を取り入れた学習指導案の作成に取り組んだ。学生は新聞に掲載された信頼できる情報と、身近な話題を取り入れ、幅広く深みのある授業をつくり上げた。

2025年度後期の「ICT活用教育の実践と課題」を履修した学生が、幅広い教科の授業を組み立てた。

県教委から派遣された現職院生、南館淳基さん(36)＝盛岡・城南小所属＝は、小学6年理科の単元「地球に生きる」の指導案をまとめた。生物と環境の関わりについて、プラス日報の「調べる」を使って記事を検索し、分かったことを新聞制作ソフト「クミハン」でまとめ、グループで発表する構成とした。

本県沿岸にも多くのプラスチックごみが漂着し、一部は海外から流れ着いた物も含まれていることを伝える記事や、浜辺の斉清掃の記事を検索。調べた結果は、切り抜き紙面を添えて新聞にまとめるという内容だ。

南館さんは「プラスチックごみの県内

の現状など、教科書の内容を身近な問題として捉えられた。記事を読んだり考えをまとめたりする過程で、子どもたちが自分にできることを考えるきっかけになればいい」と期待する。

本紙の記事は、多様な教科に対応できる。小学6年社会「幕府の政治と人々の暮らし」で設定した学生は、参勤交代、鎖国とキリシタン弾圧、アイヌとの交易について、本県の関連記事を調べ、理解を深める構成とした。

中学3年数学「標本調査」の指導案は、全国学力テスト、選挙の出口調査、国勢調査、視聴率調査、世論調査などの記事をピックアップ。「全数調査」「標本調査」に分類する授業を計画した。中学3年英語は、教科書は紙とデジタルのどちらが良いかをテーマに、関連記事を読んで英語で意見交換する学習内容が示された。

3回の授業を担当した早坂良・准教授（数理情報教育）は「ネットにはフェイクニュースもあふれており、玉石混交だ。



南館淳基さん



「浜辺が示す海と人」 岩手日報2024年8月24日
「めざそう海ごみゼロ」 岩手日報2020年9月22日

南館淳基さんがクミハンで作った新聞「海を守ろう」

新聞を基にしたデジタル教材を活用することで、信頼ある『玉』の情報に触れられる」と評価する。同大は、岩手日報社などと連携し、教育実践学と情報学を融合した高度専門人材育成プログラムを展開している。

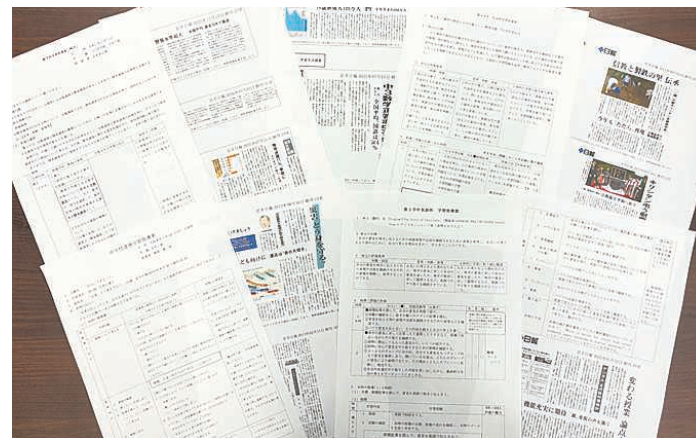
岩手大教職大学院の学生が作成した学習指導案

学年	教科	単元	出版社
小3	道徳	けいの秋田竿燈まつり	学研
小4	国語	アップとルーズで伝える、新聞をつくろう	光村図書
小6	社会	戦争と人々の暮らし	教育出版
小6	社会	幕府の政治と人々の暮らし	教育出版
小6	理科	地球に生きる	東京書籍
中2	理科	地球の大気と天気の変化	啓林館
中2	道徳	自分にできること（生命の尊さ）	
中3	数学	標本調査	
中3	英語	The Story of Chocolate	開隆堂
高校工業科	工業情報数理	コンピュータの基本操作とソフトウェア	実教出版

(注) 受講者13人のうち公開可能な10人の指導案を掲載します。



学習指導案
はこちら



学生が作成した学習指導案の一部